

庄内森林管理署	
タイトル	庄内海岸林砂草地の重要性啓発のための現地見学会
実施年月日	平成24年10月23日(火)
実施場所	山形県鶴岡市湯野浜字浜泉国有林194林班外
参加者	局署：東北森林管理局、仙台森林管理署、朝日庄内森林環境保全 ふれあいセンター、庄内森林管理署 14名 外部：山形県庄内総合支庁森林整備課、鶴岡市、酒田市、遊佐町、 万里の松原に親しむ会、砂丘地砂防林環境整備推進協議会 21名 計 35名
<p><b>【取組の目的・概要】</b>  庄内海岸には、庄内平野を飛砂の被害から守るため、先人たちの長年に亘る努力の末、総延長約33km～34kmに及ぶ広大なクロマツ林が成立している。  当署では、この海岸林において海岸防災林造成事業を実施しているほか、当署及び山形県、関係市町、学校、ボランティアを中心とした地域住民が一体となり、また連携を図りながら、維持管理等に取り組んでいる。  このように、長い年月をかけて形成された庄内海岸クロマツ林を未来に引き継ぐべく、当署がこれまで行ってきた海岸防災林造成事業のうち、特にクロマツ林を維持するための生命線である砂草地の重要性等について、海岸林の持つ機能と併せて認識を深めてもらうことを目的に現地見学会を開催したものである。</p>	
<p><b>【取組の成果】</b>  見学会当日は、低気圧の通過に伴う風雨の強い中で実施したことから、沿岸部では強風のため傘もさせず、ハンドマイクの声も聞きづらかったが、クロマツ林内では風が殆ど感じられないという貴重な体験が出来、海岸林の重要性について認識を深めていただけた。  また、波浪により前砂丘及び砂草地が浸食された箇所においては、沿岸部の砂が後方まで飛ばされ、あと少しでクロマツ林が砂で埋もれる恐れがある現地を目の当たりにし、前砂丘を覆っている砂草の重要性についても認識を深めていただけた。</p>	
<p><b>【出された意見】</b>  砂草（ハマニンニク）の在来種は冬に地上部が枯れてしまうので、冬も青々としている外来種の方が飛砂防止効果があるのではないかと。  （各種事由により採用が出来ない旨を説明）</p>	
<p><b>【今後の課題】</b>  見学会当日の天候があまりにも悪く、現地で意見交換・質疑応答に対する十分な時間を取れなかったことから、現場で実施する場合は会議室等を準備し意見交換等を行うよう計画を立てる必要がある。</p>	

タ イ ト ル

庄内海岸林砂草地の重要性啓発のための現地見学会



開会にあたっての挨拶



林内での説明状況



治山工事施工地での説明



松くい虫伐倒駆除後の植栽地で説明



松くい虫伐倒駆除後の植栽地で説明



砂丘被災箇所での説明状況